

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

21日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。発言通告書ののっとり1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市における「人口減対策に直結する施策」について。

民間の有識者グループ「人口戦略会議」は、全体の4割に当たる744の自治体で、2050年までに20代から30代の女性が半減し、「最終的には消滅する可能性がある」とした分析を公表しました。

その中には糸魚川市も含まれており、2050年までの間に地域が消滅してしまわないよう、糸魚川市として、地域産業の魅力化や、企業や市民を巻き込んだ意識啓発が今後必要であると考えます。

「きっと誰かがやるであろう。」そんな意識が、判断や行動を遅らせ、人口減に拍車をかけるのだと思います。

人ごとから自分事へ。本当に地域を守れるのは、そこに住む人たち、そこで生まれた人たちにほかならないと考えます。

(1) 「産業振興」について。糸魚川市にとって将来の産業発展を見据えた長期ビジョンや、現在も取り組んでいる施策を伺います。

(2) 「企業支援」について。地域でご活躍される企業にとって喜ばれている施策や取組について伺います。

(3) 「中心市街地活性化」について。都市機能誘導区域への施設設置から、にぎわい創出までの中心市街地活性化のビジョンを伺います。

(4) 「雇用促進やUターン施策」について。人口減少対策は各市町村の政策だけでは、効果が現れにくいと考えるが、地元糸魚川市での雇用、Uターンへの動機づけで、市民や企業の皆様に協力していただきたいことは何か伺います。

(5) 「交流人口と関係人口の拡大」について。糸魚川市が力を入れている観光振興や、道の駅整備計画、糸魚川市海の魅力アップ推進計画等、取組について伺います。

(6) 国、県からの予算づけに対する糸魚川市の実績は、職員の皆さんと共に、米田市長が積み上げてきた実績であり、そこで構築した信頼関係は引き続き大切にしていく必要があるが、地方創生が叫ばれる中、市役所だけに頼らない地域活性化に向けた市民啓発はあるか伺いま

す。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、第3次総合計画第3章の産業分野に記載しており、にぎわいと活力のあるまちづくりを推進してまいります。

2点目につきましては、市が実施している支援メニューにつきましては、皆様から活用されていることから、喜ばれているものと捉えております。

3点目につきましては、若者・子育て世代が快適に暮らせる中心市街地づくりを進めてまいります。

4点目につきましては、地域への誇りと愛着を伝えていくことだと考えております。

5点目につきましては、今年度は、北陸新幹線敦賀延伸や大阪・関西万博を見据えた関西方面からの観光誘客と、上越3市による観光連携をさらに強化してまいります。

6点目につきましては、持続可能なまちづくりには、市民や民間事業者の皆様が、自ら考え、行動することが大切であることから、機会を捉え、啓発に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問をしたいと思います。

（1）の産業振興について、再質問させていただきます。

糸魚川産業プラットフォームの取組で、緑でつなぐ未来創造会議（通称3M）も、毎月、企業経営者を中心とした方々が、市職員と共に商工会議所でミーティングを行い、日々研さんし、進化を遂げられています。今後も、このように有効な官民連携を継続的に行っていただき、さらなる産業発展に期待しております。

糸魚川市の支援策や取組で、インターンシップ促進補助金や外国人の雇用支援などは人口減に適応した制度であると思っております。

ここから質問になりますが、近年、糸魚川市においても雇用が増え続けているキャリアステージ *thead* が運営するテレワークオフィスについて、就労者の状況と今後の展望を教えてくださいたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

1点目の就労者の状況につきましては、テレワークオフィスで活躍しております、キャリアステーションといがわには、現在、約40名の方が登録されておまして、育児や介護中の女性が多い状況には変わりはありません。

2点目の今後の展望につきましては、今後も、やはり安定した仕事の獲得を目指しまして、首都圏のIT企業や市内関連企業、また、各施設に連携を進めていきたいなというふうに思っております。

また、市役所も、アウトソーシングのほうを出して、活躍いただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続けて質問させていただきたいと思います。

子育てや介護などが理由で、フルタイムで働くことが難しい方やほかのお仕事とダブルワークをお考えの方などに、時間にとられない働き方を提供している、いといがわテレワークオフィスは、糸魚川市で働きたい女性にとって貴重な環境であると考えますが、今後もこういった働き方の需要は増え続けるかとお考えか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

threadで就労を希望されている方は、やはりその時々々の生活環境が異なりますので、今後も増え続けるかどうかは分かりませんが、やはり時代の流れとして、就労を望まれる方にとって、議員ご質問のとおり、多様な働き方を推進することは必要であり、貴重な環境であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

働く人が増えるということは、相応の仕事量が必要であると考えますが、願わくは、その仕事量を絶やすことなく事業を継続していただければと考えますし、女性が安心して働ける環境づくりは、糸魚川市にとっても高い付加価値になってくると考えますので、今後とも、この取組については強化していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

t h r e a dの活動や働き方を昨年度、総務省信越総合通信局長表彰を受賞するなど、当市の先進的な取組として、市内外に客観的に評価されているものというふうに考えております。

議員ご提言のとおり、引き続き強化できるよう取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

引き続き強化のほうをお願いしたいと思います。

ちょっと質問替わるんですけども、私たち党派も市民との懇談会とかミーティングとかで、何度か使わせていただきましたクラブハウス美山の質問になりますが、そちらの利用者数の推移と今後の展望があれば、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えさせていただきます。

今ほどご質問のクラブハウス美山につきましては、令和4年7月から、ワークスペース中心の供用を開始しております。イベント利用の利用時を除きまして、令和4年度につきましては、1日3.4人平均から、令和5年度には1日5人平均と利用者が増えてきておりまして、徐々に認知されているものというふうに感じております。

また、昨年2月にコミュニティマネジャーを配置いたしまして、様々なイベントを仕掛けるなど、新しいやり方で認知度向上と利用促進に取り組んでまいっております。短い期間でIT企業誘致や人の移住にはつながりませんが、この施設があるからこそ、糸魚川が選ばれる面白い場所になるよう進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

以前、商工観光課のほうに長期滞在している外国人観光客の方が、うまく出入りできるように対応をお願いしたことがあったんですけども、本当に迅速な対応で事なきを得たんですけども、そういった意味では、やはり市民の宿泊施設の方も、そういった施設を広めていこう、使っていただくという行動に出ているので、また、そういった、本当に対応に感謝しておりますし、

また、積極的にそういったところで市民の皆さんに認知を深めていただければと思います。
よろしくをお願いします。

続きましてですが、また質問が戻るんですけども、Uターンで一度は帰ってこられた若い世代の女性が、働き口に困って、上越で就職されたというお話を聞きます。そのまま上越で住むことになってしまったという話を私の周辺だけでも2件ぐらいもうお話があるんですけども、こちらからお願いしたいんですけども、若い世代の女性も働ける場所が糸魚川にあるんだよということこれからしっかりお伝えいただきたいなと思うんですけども、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

私たち市で今行っておりますのは、t h r e a dの事業がございます。やはりt h r e a dを中心としました多様な働き方や、また、クラブハウス美山を経由したIT企業のサテライト化、また当市の、進出していただきました若い女性の就労につながる実績は、IT企業には実績が出てきておりますので、引き続き、取組とPRのほうに努めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

若い女性が働ける環境が糸魚川市にもあるというのは、すごい付加価値だと思いますので、力強く発信していただければというふうに思います。

続きまして、2つ目の質問でございます。企業支援についてでございます。

糸魚川市内で生産、または製造された農林水産物及び加工品等を販売するECサイト、いといがわ逸品市場ですが、ふるさと納税ができる「さとふる」との兼ね合いはどうなっているか。お客様、お客様というのは、その利用者、利用される方と出店者の指示は、どちらのほうに優れているのか、よいのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

私どもが運営しておりますECサイトは、やはりふるさと納税と返礼品が気に入られた方が、またリピートして購入できる役割もあるのではないかなというふうに考えております。

ただし、やはりお得感のありますふるさと納税サイトと、通常価格で購入するECサイトでは、比較はなかなか難しいのではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

あえてこういう質問をちょっとさせていただいたのは、意外と市民の方から問合せをいただく中で、ふるさと納税のところに出品したいという方が多いもので、やっぱりちょっとECサイトというところにうまみがないのかなというふうにちょっと感じた嫌いがございまして、こういう質問をさせていただきます。どちらも、どちらのサイトも活性していただきたいという思いなんですけれども、やはり進めていく上で、また有効な、出店者のほうに有効なお勧めをしたいなという思いで質問させていただきました。

続きまして、再質問させていただきたいと思います。

2018年から始まった創成塾ですが、着々と実績を上げられていると実感しております。その傍ら、糸魚川市で創業され、20年、30年と歩みを進められている企業も多く存在しております。

糸魚川市は、新規創業に対して手厚く支援をしていただける印象はあるのですが、創業してから間もなく30年を迎える企業様からこんなお話をいただきました。

糸魚川で創業してから、今までひたすら運営に頑張ってきた。長く経営をしていると工場も老朽化が始まって、修繕も検討しなければならない状況だ。跡継ぎがない会社なんかは、本当に高額な修繕をきっかけに、事業継続の判断に迷われていると思う。お祝いじゃないんだけど、糸魚川市で長く商売を続けている会社に修繕などに踏み切れる、そういった支援策はないのかというものでした。

糸魚川市においては、リフォームに関する補助金も用意されておりますが、事業を長きにわたり継続していただいている会社に、これからも末永く頑張りたいという敬意を表する意味で、糸魚川市独自のお祝いのような支援制度は創設できないか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

市内で、長きに事業を継続していただいている事業者の皆様には、本当に大変努力もされて感謝のほうもさせていただいております。やはり創業支援につきましては、人口減少、後継者不足で廃業が多くなる日本経済全体の活力を維持するために、新たなチャレンジを後押しする国の政策でございまして。当市におきましても、やはり特に駅北大火やコロナ禍においても、依然として創業の機運は本当に高いかなというふうに感じております。

一方で、やはり長年、産業を支えてきていただきました事業所の事業継続につきましては、これまでも、やはり人材育成や、また、生産性向上などの面から、支援のほうをしていただいているつもりでございまして。各支援をやはり有効に皆さん使っていただきまして企業収益を増やし、労働環境をよくし、事業継続のほうを図っていただきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ここで、市長に要望といいますかお尋ねしたいと思うんですが、糸魚川市には、優良工事、優良技術者に対する表彰の要綱があると思うんですが、可能であれば、糸魚川市において、例えば先ほど申し上げましたとおり、30年の節目などに表彰式と併せて、お祝いの制度なんかを創設していただけたらというふうに考えております。

東京商工リサーチの統計では、中小企業の平均寿命は、創業からおよそ20年であるとされており、糸魚川市において会社を運営させてもらってよかったと思っていただける、喜んでいただける制度の創設をぜひお願いしたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、商工会議所、また商工会の皆様方が、長きにわたって運営されておる企業の皆様方や、また、お勤めされておる従業員の方に対する表彰と規定みたいなものがあるわけでございまして、それに我々も参加させていただいて進めておるわけでございしますが、市単独ですするというのはどうかと思うわけでございまして、その辺また、この経済団体の皆様方とそういったのはどういう形がいいのかというのは、やはり協議して、そしてまた持続していただけるような、そしてまた、それに支援できるような形というのもやっぱり必要だとは思いますが、その辺を協議させていただく中で捉えていきたいなとは思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

本当に立地適正化計画の中にも、新規創業2050年まででしたかね、70件まで増やしていくという、そういう総合計画の中にも、そういった目標がある中で、着々と実績上げていただいているのはすごいなというふうに思いますし、本当に毎年、創成塾が活性しているの見てると、本当に糸魚川も捨てたもんじゃないなというところを感じております。

そういった中で、やはり着々と長きにわたり、地元でなりわいを起こしていただいている、なりわいを続けていただいているという企業様にも、やはり会議所あたりとまた連携していただいて、またそのようなそういう制度の創設に向けて検討していただければというふうに思います。よろしくお願ひします。

続きまして、（3）番の中心市街地の活性化について、再質問させていただきます。

糸魚川市の立地適正化計画は、若者・子育て世代が快適に暮らせる中心市街地づくりを指すものでありますが、中心市街地での魅力的な都市機能の集約と快適な住環境の整備により、若者や子育て世代が増えることで、高齢者も含めた多様な世代が集い、交流し、安心して住み続けられる中心市街地の形成を目指すとしてあり、平成31年の策定から期間を令和17年までとする、この計画は、今現在どの程度進捗しており、令和6年現在で課題となるものは何か伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

おはようございます。

議員ご指摘のとおり、今現在、立地適正化計画に基づきまして、都市機能誘導施設であります子育て支援複合施設の計画を進めているところでございます。そのほか、居住誘導地域への移住に対しまして、補助金のかさ上げを行うなどの誘導策を実施してきております。

議員もご承知かと思えますけれども、移住を促進していくには非常に時間がかかる、その反面、急激に進む少子化、人口減少といったところが課題かなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

その若い世代が暮らせるというところで、ちょっと疑問に思った部分があるので再質問させていただきますが、若者・子育て世代が快適に暮らせる中心市街地づくりとありますが、今後も居住誘導区域に若い世代が住んでいただくために何かしらの措置はあるのか。その措置は、現実的で、今後、立地適正化計画を実行していく上で有効なものか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

私どもも都市機能誘導施設の設置だけで、計画の目的が実現できるものとは考えておりません。これらに併せまして、先ほどお話のあったテレワークオフィスなどの中心市街地への誘致ですとか、あと、キターレで行っております新しいプレーヤーの開拓、こういったのを活性化することによって、中心市街地の機能が充実をする。それによって魅力を感じた若い世代が中心市街地に進むといったところが、計画の概念だというふうに考えておりますので、いずれにしましても、こういったことをやり続けることが重要だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

若い世代が暮らせるとなると、その居住を誘導されるのは、若い時代にそこで暮らしてもらい、住んでもらうという考え方でよろしいのでしょうか。もうそれにこだわらず、居住誘導区域にはいろんな世代に住んでいただきたい、そういう政策を進めるのか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

当市の魅力を増すことによって、新しい若い世代が入ってくる。そこに住む、もともと住む高齢者の方々ですとかとの交流、融合によって、さらに機能を増していくといったところを目指してのものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

米田市長に再質問させていただきたいと思います。

計画を見ますと、おおむね20年後を見通して、住宅や都市機能を緩やかに誘導し、公共交通を充実させることで、将来にわたり暮らしやすいまちを目指すものと計画にはありますが、注釈で、必要に応じて見直しを行うものとしますとありますが、計画に先送りの猶予があるものと感じてなりません。こんなまちにしようという強い号令と道しるべを地域に浸透させることが、今控えている糸魚川の大きな事業、子育て支援複合施設設置の深い理解につながっていくものと感じております。

先日、子育て世代の方から、アソビバを使わせてもらったが、糸魚川にそういう施設があれば助かりますというコメントをいただいております。人口減少により、子供や子育て世代が少なくなるのは確実ではありますが、その少なくなる子育て世代を大切にする糸魚川、糸魚川の中心市街地であってほしいと願っております。計画を着実に進めていただきたいと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

子育て支援複合施設につきましては、非常にいろんなご意見をいただいております。そういう中で、我々は今進めてきておるこの事業については、今動き始めてきておるわけでございますので、それをやはり計画どおり進めていくことが必要だと思っております。

また、結構長きにわたって計画いたしてらるわけでございますので、その時代によっては変化もあろうかと思っております。特にそれは、この1月1日に起きた能登半島地震においての避難の施設にも資するものに持っていけるものもあるのではないかと思いますし、また、この非常に急激なこの人口減少の中においていろんな課題も起きてくるわけでございますが、そういったものもやはり進めていく段階の中で、全ては取り入れられないにいたしましても、計画段階の中で入れられるものは入れていきたいわけでありまして。そうすることによって、やはりこの中心市街地において利便性が高まれば、これはここに住む人たちにおいても、また、よそからおいでいただく方々にしても、やはり魅力ある地域になっていくんだらうと思っております。一気に、全ていろんなものをやはり

今の時代ですから、いろいろなものが必要なまちの中の、持続可能なまちにしていくには必要なのかもしれませんが、できるところからやらなくちゃいけないだろうとっております。

そのようなことで、やはり時間がかかるかもしれませんが、そういったことで着々と進めていくことが必要だと思っております。中心市街地は、やはり糸魚川の中心としての位置づけは必要だという捉え方の中で取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

若い世代が、快適に安心して暮らせる、そういった中心市街地、私も願っておりますのでよろしくをお願いします。

続きまして、4番目の雇用促進やUIターン施策について再質問させていただきます。

地元糸魚川への就職促進による担い手の確保の活動として、市内見学バスツアーの開催や会議所と市役所が連携して行うチル・ナイト・ミーティングなど、すばらしい企画があると感じておりますが、現在、どのような効果が現れているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

地元就職の促進につきましては、今ほどお話ししたチル・ナイト・ミーティングは新たなものでございますし、またバスツアーにつきましては、長く実施させていただいております。これまでも、様々な取組を実施してきてはおりますが、やはり全国的に見ても特効薬はないものというふうに思っております。

ご質問のチル・ナイトの事業の効果につきましては、企業をより多くの方々から知っていただく機会をやはりつくることや、やはりふるさとへ、糸魚川のつながりを維持するために大変効果があるものだというふうに思っております。引き続き、地道に活動を続けていく必要があるというふうには認識はしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

チル・ナイト・ミーティングのような企画において、参加いただいた方々に聞き取りなどはされているのか。また、それぞれの企画の狙いとは違う動機で参加されている方も、中にはいらっしやると思います。参加された方のほとんどは、Uターンや地元就職に強く関心を持たれているのか、その辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

この事業につきましては、やはり参加者側、また企業側ともに、アンケート調査のほうを実施させていただいております。令和5年度の開催におきましては、Uターンが選択肢にあるというふう
に回答した割合は約6割ございました。希望が持てる数字ではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

その6割の確率で、本当に帰ってきていただけるといいなというふうに思いました。

参加されている次代を担う若い世代は、糸魚川市が人口減により消滅の可能性があるまちである
という認識があるものと捉えているか、伺いたいと思います。過剰に人口減の危機感をあおるよう
な周知の仕方は好ましくないと考えますが、今ある糸魚川市の人口減の状況をしっかりとお知らせ
する必要があるのではないかと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

おはようございます。

お答えいたします。

糸魚川市の将来に関心を持っていただくということは、とても大切なことだと捉えております。
先ほど大西課長のほうでも申し上げましたように、ふるさととのつながりを持っていただくという
のが一つの、チル・ナイトの目的でもあろうかと思っております。

今回の消滅可能性自治体となったこと、非常にショッキングな言葉でもありますので、なくなっ
てしまうだとか諦めといった悪い印象、暗い印象を、ただ持ってもらうということではなくて、市
民向けにも何らか広報のほうを、周知のほうを考えてまいりたいと考えておるところでありますの
で、市外の方、そういったチル・ナイトに参加される方とか関連する方々への何らかの周知につい
ても、併せて検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

若い世代の方に糸魚川市で過ごしてもらい、仕事に従事してもらうには、どのような価値観を伝
える必要があるとお考えか伺いたいと思います。

私は、糸魚川市が用意してくれている支援制度や補助金だけでは、なかなか若い世代を糸魚川市
に誘引することは難しいのではないかと考えております。郷土愛であったり家族愛であったり、若

い世代にも、都会では得られない幸福感を糸魚川市で得てもらえると思いますが、それらを追求するために、現段階で考えられる取組等ありましたら、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

今ほど議員おっしゃられるように、やはり郷土愛といったところが一番大切なところになるのだろうかというふうに思っております。全体的な、全庁挙げての取組になってまいりますけれども、郷土愛を育む教育ですとか、また、地域においては、地域づくりや伝統文化の継承、スポーツといった、世代を超えて心に残る活動といったところを大切にしていかななくてはならないんだらうというふうには思っております。

現在、企画定住課のほうでは、移住者向けのサイトではありますけれども、糸魚川暮らしを楽しんでいる人たちの様子を紹介しておりますサイトもございますので、そういった中でも、都会では得られない幸福感を示すといった方法にもなろうかと思っております。今回、消滅可能性自治体となったことを改めて糸魚川での暮らしのよさとか、都会にはない楽しさというのを心に訴えかけられるような取組というの、併せて考えていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

私には、2人の息子がいます。現在、もう2人とも大学に行っておるんですけども、彼らの将来や自由を侵害するつもりはありませんが、あまり多くを語らずに素直に、いずれ糸魚川に帰ってほしいと伝えていきます。糸魚川には何もなし、働く場所もないから帰ってこなくていいと言ってしまうと、本当にそのとおりにになってしまうというふうに思っています。

家族間の会話も重要になってくると思います。

まず、親も企業も市も、あなたの力が必要だと、こういった素直な気持ちで伝えることが大切なんじゃないかなというふうに思っております。

人口減は止められません。消滅の可能性から脱却するには、糸魚川市民である皆さんの力もお借りしなければなりません。そのように頑張っている糸魚川の人たちの皆様の姿が映し出されることで、若い世代の方にも糸魚川に対する価値観がしっかり生まれてくるのだと思っています。

人口減対策は、はっきりとした答えがないと考えます。多くの人は、きっと誰かがやるであろうという世界観であると思いますし、まずは関心を持っていただくことが大切なんじゃないかなというふうに思っております。市だけで抱えず、我々市民を巻き込んだ取組をぜひ行っていただきたい、そのように思いますが、米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく今、議員ご指摘のとおり、行政だけでできるものではございません。行政が、やはり市民のそういったいろいろな潤いのある市民生活のためにあるのが行政であるわけでございますので、そういったところを考えたときに、いかに市民の皆様方が、心地よく居心地のいいまちになっていくことが必要だろうと思っております。そのためにいろんなことをこれから考えなくちゃいけない部分もあるわけでありますが、やはりこれはただ、このにぎやかなところに集まればいいということではなくて、やはり体感し、経験し、そして一体となって活動していくことが、やはり愛着の持てるまちになっていくんだらうと思うわけでございますので、なるべく市民参加型のいろいろな伝統行事であろうと、また事業であろうと、イベントだろうと、そういうものをやはり主に考えていくことが、これからのふるさとづくりに必要なところだろうと思っておりますので。そういう中で、ここでしっかりと生活できるという仕事、経済が位置づけられれば、将来において、私は、ある程度減っても持続可能なまちになっていくんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく申し上げます。

（5）交流人口と関係人口の拡大について、再質問させていただきます。

先般の私の質問で、P a r k－P F Iの可能性について示唆いただきましたが、積極的に取り組んでいただけると回答を頂戴しました。今後は、3月にパブリックコメントを実施した道の駅マリンドリームや美山公園の運営に期待される制度であると考えます。

糸魚川市には、公共空間を生かした観光資源がまだまだたくさんあると考えますが、今考えられる、手を加えられる候補地があれば、ぜひお聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

ご質問のP a r k－P F Iは、基本的には都市公園に限定される制度でございます。民間の、資本とスキルを導入することで、行政コストの削減とサービスの向上を図る取組は、観光資源はもちろんのこと、あらゆる公共施設や公共事業で検討できるものというふうにご考えております。

今ほどご提言の、糸魚川市内には公共空間を活用した観光がたくさんあるというお話でございます。市役所が、やはり全庁を挙げて導入を検討し、推進する時期に来ているのではないかなというふうには、個人的には考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

本当にいろんな魅力のある空間、糸魚川市に点在しておると思いますので、積極的にそういった声が上がれば、そういった可能性に挑戦していただきたいと思いますし、チャレンジしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

続きまして、糸魚川市の観光振興について。

糸魚川市単独で観光振興を進めていくには限界がある。そのように感じております。現在は、白馬村とも連携が強化されつつありますが、白馬村は、オーストラリアやアジア圏からの来訪者が多く、そのインバウンド需要にあやかる必要があると感じています。今までは、夕食を糸魚川市で食べてもらうためにシャトルバスの運行をされていましたが、白馬村で長期滞在される外国人観光客に、ツアーなどの一部に糸魚川市を含めてもらうとするならば、どんなコンテンツを武器にすればよいとお考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

インバウンドを含みます観光客は、県や市町村など、自治体の区分なく、観光スポットではなく、エリアで巡っておられるものだというふうに考えております。観光として、着地型観光を進めるためには、やはり地域内の連携が重要ではございます。

ただ、やはり白馬エリアなどの近隣などで、地域外の連携も大変重要なものでございます。糸魚川市が白馬エリアと連携し、その中で差別化、またブランド化するには、やはり日本海の恵みの食がコンテンツの一つになるというふうに考えております。具体的には、やはり特産でございますベニズワイガニ、またアンコウ、また、モズクや岩ガキなどが考えられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

やはり白馬の皆さんにとって、そういう強いコンテンツとなると食の部分かなというのが真っ先に思い浮かぶんですけども、本当にそういった意味でいい連携をして、今後もいいつながりを持続していただきたいと思いますし、また、観光の振興にも努めていただきたいというふうに思います。それでは、6番目の再質問でございます。

糸魚川市は、行政サービスにおいても、観光においても、教育においても、防災においても、福祉においても優秀で、職員の皆さんも真面目で熱心とあると思いますが、糸魚川市における強み中の強み、コア・コンピタンスなんですけども、何であるか、お答えいただければと思います。米田市長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり糸魚川は、ご承知のとおり、広い地域、市域を持っておるわけでございまして、そのやはり変化のある地形、地質が、やはりこの強みになる部分だろうと思っております。また、それから成るこの歴史文化というものも、他の地域にないものを有しておるわけでありまして。

しかしながら、この長い歴史の中においては、消え去った伝統文化が、伝承文化があるわけでありまして、今残っておるやつは、やはりしっかりと連携しながら地域で存続させていくことなど、いろいろ考えなくてはいけないものがあるかと思うわけでございます。そういう事柄については、やはり行政ではなくて住民の皆様方がプレーヤーであるわけでありまして、主人公であるわけでございます。そういった人たちがしっかりとつながっていけるような、続けていけるようなことが大切だと思っておりますし、今言ったように、自然資源と、そして歴史文化、それともう一つはやはり人です。人がやはり、住んでる人たちが、自分たちのふるさとという気持ちの中で、どのようにそれを育てていくかというところが大切であろうかと思っております。そういったこの考えの方が決して少なくないと思っております。そういった人たちがたくさんいるわけでありまして、そういった人たちと、今言ったように自然資源と歴史文化、そして人たちの、やはりこれは他にない特筆するものでございますので、そういった人たちが、またそういった資源をどのように生かしていくかということが、私は、今後これからの観光になり交流人口につながるものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

これで最後の質問になりますが、今後は、糸魚川市のその強みを生かして伸ばしていく必要があると感じております。緊縮財政については、今後も意識していかなければなりません。そういった話ばかりですと、市民も職員も暗くなってしまうのではないかと感じております。

昨日の防災訓練も、米田市長が先頭に立ち、市民と交流されておりました。市民会館におられた職員さんも生き生きとされておりましたし、私たち若い世代の議員も、市長の姿を見習ってまいりたいと思います。糸魚川市のリーダーとして、これからの若い世代に期待することをお聞かせいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

若い人たちは、やはりこれからの自分の将来、そしてまた、そこに住んでおるふるさとの将来というのは、非常に大切に私は捉えておられると思っております。団塊の世代、私たちが住んでいた時代もさることながら、数が少なくなればなるほど、やはり私はそういう声を強く、教育の中でも、また地域の中でも、耳にすることが以前に増して多くあったかと思っております。

そのようなことから、そういった教育の中で、子供たちは、また若者たちは、しっかりとそのふるさとというものの位置づけを、私はお考えいただいております。それが、チル・ナイト・ミーティングのような形の中で返ってきておるんだらうと、私がお考えいただいております。それが、チル・ナイト・ミーティングのような形の中で返ってきておるんだらうと、私がお考えいただいております。それが、チル・ナイト・ミーティングのような形の中で返ってきておるんだらうと、私がお考えいただいております。それが、チル・ナイト・ミーティングのような形の中で返ってきておるんだらうと、私がお考えいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ありがとうございます。私も、もう決して若くはないんですが、そういった意味で愛する糸魚川を盛り上げていくために、そしてやっぱり住んでいる私たちが、しっかり守っていかなければならないと思っております。人口減という暗いフレーズではありますけども、その現実をしっかりと受け止めて、これから頑張っていかなければならないなというふうに考えております。

ここ最近、市役所の皆さんにいろんな相談事、頼み事が多くて、むちゃも言っておるんですけども、そういった意味ではしっかり市民の皆さんの声を聴いていただきたい、そんな思いで毎回、ご相談させていただいております。

そういったところで、今後も人口減、そういった暗いフレーズに負けないように一緒に歩みを進めていけたらなというふうに思っております。よろしくお願ひします。

以上で、私の質問を終了します。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。

再開は11時といたします。

〈午前10時52分 休憩〉

〈午前11時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕